エ　ウにおいて許容値を超える場合は、スペクトル分析器の設定を２⑵とし、中心周波数を試験周波数の上側の離調周波数に設定して掃引し、掃引周波数幅内の全データについて１MHz当たりの電力総和を算出する。

オ　隣接チャネル漏えい電力の全放射面におけるＴＲＰを求める。

カ　オで求めたＴＲＰにバースト時間率の逆数を乗じた値を上側隣接チャネル漏えい電力の測定値とする。

キ　スペクトル分析器の中心周波数を試験周波数の下側の離調周波数に設定し、上側隣接チャネル漏えい電力と同様に下側隣接チャネル漏えい電力を求める。

ク　複数の搬送波を同時に送信する場合は、一の搬送波を送信する状態で測定を行うほか、複数の搬送波を同時に送信する状態で、搬送波ごとに測定を行う。ただし、同時に送信する複数の搬送波の間の周波数範囲においては、当該同時に送信する複数の搬送波の間の周波数範囲が搬送波ごとの占有周波数帯幅以上の場合に限る。

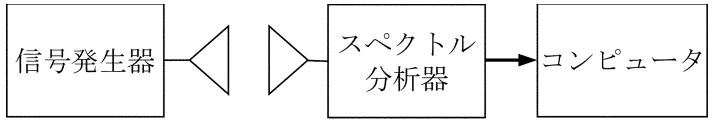
５　試験結果の記載方法

上側隣接チャネル漏えい電力及び下側隣接チャネル漏えい電力について、隣接チャネル漏えい電力比の測定値又は隣接チャネル漏えい電力の測定値を許容値が規定される技術基準で規定する単位で離調周波数ごとに記載する。

八　隣接チャネル漏えい電力（増幅度特性）

１　測定系統図

⑴　入力電力の測定時



入力試験信号用
空中線

⑵　出力電力の測定時

四の項に同じ。

２　測定器の条件等

⑴　信号発生器は、次のように設定する。

ア　周波数　　測定操作手順に示す周波数

イ　試験信号　　無変調の連続波

ウ　出力レベル　　試験機器が最大利得状態で最大出力となる入力レベルと同一のレベル

⑵　スペクトル分析器は、次のように設定する。

ア　中心周波数　　測定操作手順に示す周波数

イ　掃引周波数幅　　０Hz以上10MHz以下

ウ　分解能帯域幅　　100kHz以上１MHz以下

エ　ビデオ帯域幅　　分解能帯域幅の３倍程度

オ　Ｙ軸スケール　　10dB／Div

カ　入力レベル　　最大のダイナミックレンジとなる値

キ　データ点数　　測定精度が保証される点数

ク　掃引時間　　測定精度が保証される時間